



地震の際、まずは落下物から頭を守ることが大切です。

## 読み聞かせて楽しむおはなしの世界 ののいち子ども読書の日 おはなし会メドレー

市は7月23日を“ののいち子ども読書の日”と定め、それに合わせてさまざまなイベントや啓発活動を行っています。学びの杜ののいち カレードでは「おはなし会メドレー」と題し、カレードサポーターズクラブによる全8回のおはなし会を開催。初回の7月10日(土)には、市民14人が参加しました。通常の絵本に加え、大型絵本『パンダくんのおにぎり』や紙芝居『カマキリのぼうけん』など、いろいろな形式のおはなしに、参加者はリラックスした様子で聞き入っていました。

## しゃがむ、隠れる、じっとする シェイクアウトいしかわ

7月7日(水)の午前11時に県下で一斉に行われたシェイクアウトいしかわに合わせ、市立富奥保育園でも地震の揺れから自分の身を守るための訓練が行われました。11時に地震発生を知らせるサイレンが鳴ると、園児らは素早く机の下でダンゴムシのポーズをとります。机がずれないようにしっかりと脚を握り、先生の指示を聞きながら大きな揺れに備えることが出来ました。普段から避難することに慣れるため、毎月地震と火災に備えた避難訓練を交互に行っているそうです。



8月のおはなし会は7日(土)、21日(土)、28日(土)に開催予定です。



「自分でできることがもっとある」という感想が印象的でした。

## 野々市の未来を考える ののいち若者みらいミーティング

市が策定を進めている“第二次総合計画”。まちづくりの指針となるこの計画には、未来を担う若い世代の意見やアイデアが欠かせません。そこで、市内中・高・大学生と一緒に野々市の未来を考える「ののいち若者みらいミーティング」を、7月10日(土)にオンラインで開催しました。未来に向けて“やりたいこと”や“自分たちにできること”をグループで議論し発表。「音楽フェスをしたい!」「学校や世代を越えて一緒に学べる場がほしい」など、多くの発想が飛び交いました。

## ダイバーシティで作る幸せのまち 手をつなぐマルシェ

6月27日(日)、市内にある無印良品、のっぽくん、ふがく堂、カミーノの4つが手をつなぎ、多様性をテーマにマルシェを開催しました。あいにくの梅雨空での開催となりましたが、障害者や外国人、若者、子どもなどを支援する多くの団体が集まり、4つの会場には魅力溢れる数々のブースが軒を連ねました。珍しい多国籍グルメに舌鼓を打ち、かわいい雑貨販売にウキウキするなど、2回目の開催となった今回も多くの家族連れでにぎわいました。



理解し合える関係から、優しい地域づくりを目指します。

# まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 ☎ 227-6056

## 2030年の社会をつくるのはあなた 布水中学校2年生 総合的な学習の時間

布水中学校の2年生が総合的な学習の時間で、SDGsについて学んでいます。SDGsは2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標で、2015年の国連サミットで採択されたものです。環境や教育などに関する17の目標が設定されていて、4月からの授業では、まずこの目標を理解するところからスタート。ロゴマークと目標を線で結ぶワークを行いながら、それぞれの具体的な内容を学びました。

6月15日(火)には、身近な企業での取り組みを学ぶオンライン講演会が(株)ファミリーマート社員を講師に行われました。店内で使用する揚げ物の廃油をハンドソープやインクに再生しているという例が紹介されると、生徒から驚きの声があがりました。2年2組の伊勢奏さんは「節電や節水など自分のできる身近なことからSDGsを意識して取り組んでいきたい」と、目標達成に向けた意気込みを語ってくれました。



①、②グループごとにタブレット端末を利用してオンライン講演会を受講しました。③講師からの質問には、チャット形式で回答します。④画面を通して講師への質問を行う生徒。

## 私だから、の時代へ 男女共同参画啓発コーナー

6月23日(水)から始まった男女共同参画週間にあわせて、市男女共同参画推進員の発案による啓発コーナーが6月17日(日)からひと月の間、学びの杜ののいち カレードに設けられました。皆さんには女性は家庭を守るものとか、男性は外で働き家族を養うものなどの意識はありませんか。「男らしさ」や「女らしさ」に縛られて、やりたいことや言いたいことを我慢していませんか。ジェンダーバイアスを取り除き、個性としての「私らしさ」を尊重できるまちを実現したいですね。



料理は誰がするの？掃除は？身近な場面から考えてみよう。

## 自然の素材でつくる私だけのかご ひのき細工で作る小物入れ

7月6日(火)と13日(火)に富奥公民館と押野公民館の合同事業で、ひのきを使った小物入れ作りが富奥防災コミュニティセンターで行われました。ひのき細工は、石川県の伝統工芸。ひのきを長く薄く切った板である「ヒナ」でかごや笠などを作るものです。参加した15人は、伝統工芸士香月久代さんを講師に、斜めの模様がきれいな網代編みでかご作りにチャレンジ。32本のヒナを順番に編み込む複雑な作業に大苦戦しましたが、世界に一つだけの作品ができあがりました。



かごからひのきのいい香りがしました。